

令和6・7年度

名張市教育委員会指定 学校教育研究推進校

# 研究紀要

## 主体的に学ぶ児童の育成

～自ら本に手を伸ばし、主体的に読む子どもを育む授業づくり

「対話を通して互いの読みを深め合うための活動」～



令和8年1月23日(金)

名張市立桔梗が丘東小学校

## はじめに

本校では、「主体的に学び活動する姿」、「コミュニケーション能力を高め、つながり合う授業づくり」を目標に、協働的に学び合う活動を場に応じて取り入れながら授業改善を進めてまいりました。具体的には、国語科を核とし、並行読書の取組を取り入れ、主体的に読み、対話を通して互いの読みを深め、交流を通して学びあう子どもの姿をめざし取り組んできました。

学校は、様々なことを学ぶところです。子どもたちの学校での大半の時間は授業時間であり、私たちは、子どもの思いに応えることができる「自分の思いを出し合える授業」をつくりあげるために、どのような課題を設定するか、学びを深めるためにはどのような活動場面を設定したらよいのか、どの子も生き生きとした表情で学習に取り組めるにはどのような手立てが必要なのかを考えながら研究を進めてまいりました。

まだまだ道半ばであり、めざす思いと現実との間には不十分なところも多々あるとは思いますが、本校の研究冊子と授業での子どもの姿をご覧いただき、忌憚のないご意見を賜り、今後の教育実践につなげてまいりたいと考えます。

最後になりましたが、本校研究推進に熱心なご指導・ご助言を賜りました京都女子大学の水戸部修治先生、名張市教育委員会の学校教育室の皆様をはじめ、関係の皆様方からの温かいご指導・ご支援をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。また日頃より保護者・地域の皆様にご支援いただいていますこと、心よりお礼申し上げます。

校長 川合 哉

## 研究主題

### 主体的に学ぶ児童の育成 ～自ら本に手を伸ばし、主体的に読む子どもを育む授業づくり 「対話を通して互いの読みを深め合うための活動」～

#### 主題設定の理由

本校の学校教育目標である『「やる気・勇気・元気」の育成』がめざす子どもの姿は、「自ら学び、主体的に行動するやる気のある子」「友だちとつながり合い、共に目標にチャレンジする勇気のある子」「笑顔で、いきいき活動し、地域とつながる元気な子」である。本校児童は、素直でのびのびとし、与えられたことに対して友だちと協力しながら一生懸命取り組むことができる。また、地域の方々に温かく見守られ、挨拶や「ありがとう」といった言葉を自然に伝えることができる児童が多い。一方で、コミュニケーション力や主体性、生活・学習習慣の定着等に課題がみられる。

そこで、5年前より特に「話すこと・聞くこと」に焦点をあて、ペアやグループを活用した協働的に学び合う活動、コミュニケーション能力を高め、つながり合う授業づくりを行ってきた。また、話を聞く姿勢等を意識させながら、お互いを認め合う仲間づくりを心がけ、安心して自分の思いを出すことができる環境づくりの取組も進めてきた。

しかし、自分の考えを伝えたり、友だちの意見に対して反応したりすることはできていても、そこから話し合いを活発に行ったり、自分の考えを深めたりすることがまだまだ難しい。また、学力差が大きく、学校評価の児童アンケートからも読書経験や量に差があり、文章に対する読解力に課題もみられた。

このような児童の実態から、子どもたちにとって魅力的な言語活動のゴールを設定し、対話を通して自ら課題解決に取り組む力を育み、本を読むこと自体が楽しいと感じ、主体的に読む子どもの育成をめざし、これらの力を学習の基盤となる国語科で研究していくこととした。子どもたち同士が考えを出し合ったり自問したりしながら、自ら主体的に課題解決に向かっていく授業づくりをめざし取組を進めることとした。

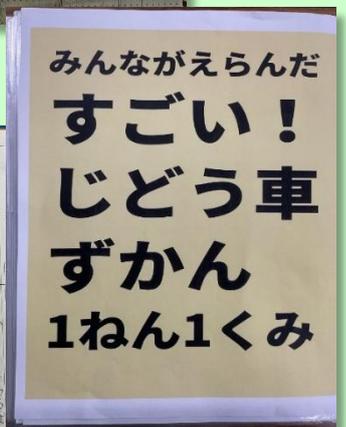
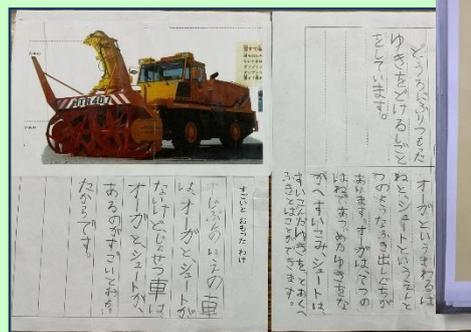
## 研究の仮説

- ① 自分の思いを出し合える授業づくりを進めていくことで、コミュニケーション力を高めるとともに、自分の考えを深めていくことができるのではないか。
- ② 主体的な読みに向かう取組として、並行読書で教科書教材以外の複数の話を読む機会をもち、教科書教材の内容の理解を深めるとともに、新しいものの見方や考え方と出会ったり、複数の話を関連づけることによって見えてきたりしたことが、子どもたち同士が考えを出し合ったり自問したりする対話へとつながっていくのではないかと。
- ③ 明確な単元のゴールや見通しをもって取り組むための学習の流れを掲示したり、他学年に学びの発信をしたりすることで、より主体的な学びへとつながっていくのではないかと。

## 研究内容

### ① 自分の思いを出し合える授業づくり

- ・授業の最初に単元のゴールや教師の見本ツールを提示し、子どもたちが主体的に活動し、見通しをもって安心して自分の思いを出せるよう授業の流れを提示する。また子どもたちが単元のゴールを意識できるよう、常に単元の流れを掲示する。
- ・読みを深めるために、ペアでの交流を行い、交流については、自分の考えをよりはっきりさせるために相手を選んで行う。「自信が持てないから同じ内容を選んでいる子と相談したい」、「自信がついてきたから別の内容を選んでいる子に聞いてもらいたい」というように、自ら相手を選んで交流を重ねることで、より主体的な学びにつながるかと考える。
- ・交流において、教師がモデル動画を作成し、それらを提示するとともに、交流の仕方や交流のポイント等を子どもたちに焦点化して伝える。



### 単元のゴール

「すごい! じどう車ずかん」をしょうかいしよう

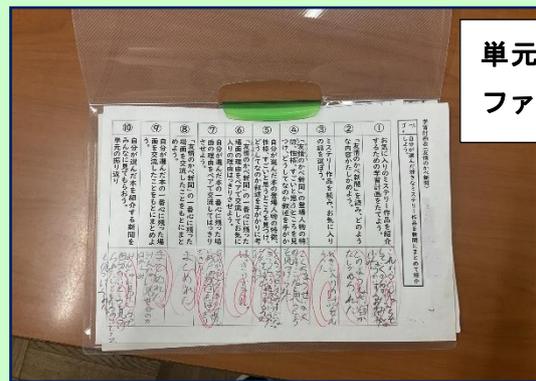
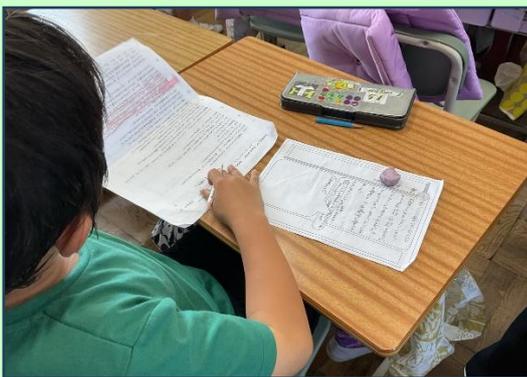
## ② 主体的な読みに向かう取組（並行読書）

- ・並行読書マトリックス表を活用し、読書への興味を継続させていくとともに、読んだ本について、「読んだ」「お気に入り」「この本に決めた」などシールで色分けをして掲示していく。そうすることで、目的意識をもって自分で交流の相手を選んでいくことができる。
- ・学校司書と連携し、並行図書の準備や購入等を行っていく。タブレットや印刷物も使いながら、並行読書、交流を進める。



## ③ 主体的に学ぶことができる学習環境

- ・子どもたちが学習の見通しをもち、主体的な活動に向かうことができると考え、学習計画表を掲示、配付する。
- ・一人ひとりが単元ごとの成果をファイリングし、自分の学びの成果の積み重ねを実感できるようにする。また、完成したツールを掲示し、他学年や保護者へ発信していくことで、自己有用感の向上につながると思う。
- ・市立図書館を活用しながら、図書の整備や読書週間等に準じた委員会活動での取組も進めて、読書推進を図っていく。
- ・「家庭学習のてびき」を子どもたちや保護者に伝え、学校と家庭とが協力して学習の基礎を築くことができるように働きかける。「生活リズムチェックシート」等を活用して、「家庭での読書」を意識したよりよい生活リズムをつくるようにする。



単元の成果を  
ファイリング



図書委員会による  
「読み聞かせ」



教室の並行図書

学校教育目標

「やる気・勇気・元気」の育成

研究主題

主体的に学ぶ児童の育成

～自ら本に手を伸ばし、主体的に読む子どもを育む授業づくり  
「対話を通して互いの読みを深め合うための活動」～

自分の思いを  
出し合える授業づくり

- ペア・グループ学習の効果的な活用
- 単元のゴールや授業の流れの提示
- 自分の考えを深めるための取組  
(交流のモデル動画、見本ツール)

主体的な読みに  
向かう取組 (並行読書)

- 並行読書に向かう教室づくり
- マトリックス表の活用
- 学校司書との連携

主体的に学ぶこと  
ができる学習環境

- 教室の学習環境(学習計画表)
- 学びの成果を掲示
- 図書室の学習環境
- 家庭学習のてびきの作成
- 生活リズムチェックの活用

### 【授業づくり部】

- ・授業の流れ、単元のゴールの提示  
(学習計画表、見本ツールの作成、検討)
- ・全文掲示、全文シート作成
- ・並行読書マトリックス表作成
- ・モデル動画の作成、編集、検討

### 【学習環境部】

- 〈教室にかかわって〉
  - ・教室掲示(勉強のかきくけこ)
  - ・学びの成果の掲示(他学年への発信)
  - ・アンケート、生活リズムチェックの実施、分析
  - ・家庭学習のてびき作成
- 〈並行図書にかかわって〉
  - ・読書活動の推進(委員会、読書週間の取組)
  - ・並行図書の整備
  - ・学校司書との連携
  - ・市立図書館(やまなみ号)の活用

### 【学年部会】

(低・中・高)

- ・単元の解釈、教材研究
- ・効果的なペア交流の課題設定
- ・指導案の検討

研究授業を行い、事前に「参観の視点」を共有し、事後検討会のグループ討議で成果と課題を明らかにし授業改善につなげる。

# 部会の取組

## 【授業づくり部】

低学年



誰がどんな題材を選んでいるかがわかる。子どもたちにとって、交流の相手を見つけやすく、教師にとっても子どもたちの読書活動の様子が把握できる。

### 並行読書マトリックス表

並行読書 伝記シリーズ

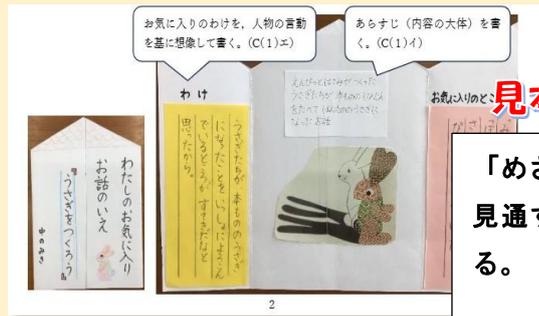
学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

高学年

## モデル動画



子どもたちにとって、交流のイメージが具体化する。



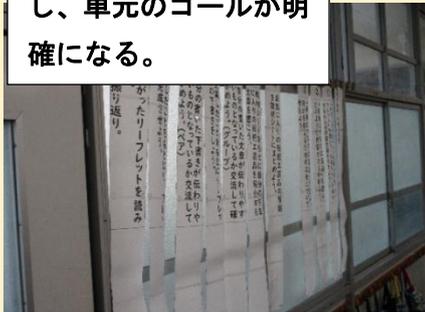
### 見本ツール

「めざすゴール」を見通すことができる。

## 【学習環境部】

〈教室環境にかかわって〉

単元の全体像を意識し、単元のゴールが明確になる。



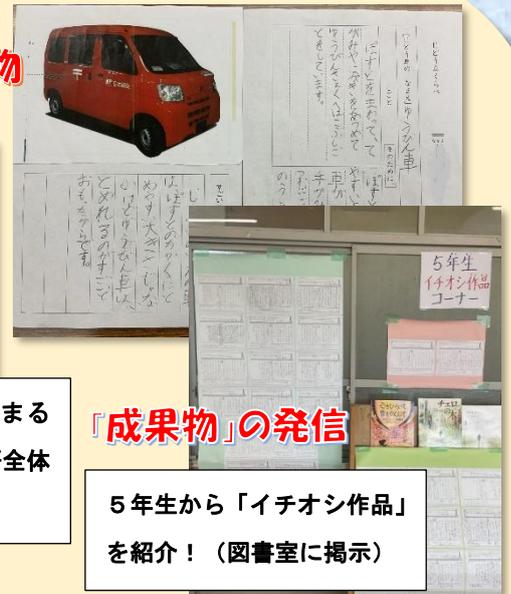
### 単元計画

## 学びの成果物



### 全文掲示

部分的な読みにとどまる子どもにとって、物語全体が把握しやすくなる。



### 「成果物」の発信

5年生から「イチオシ作品」を紹介！（図書室に掲示）

〈並行図書にかかわって〉

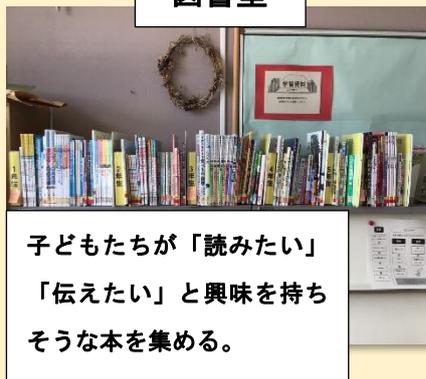
教室

## 並行図書



5年「椋鳩十」シリーズ

図書室



子どもたちが「読みたい」「伝えたい」と興味を持ちそうな本を集める。

### 「並行図書」のリスト

## 成果と課題

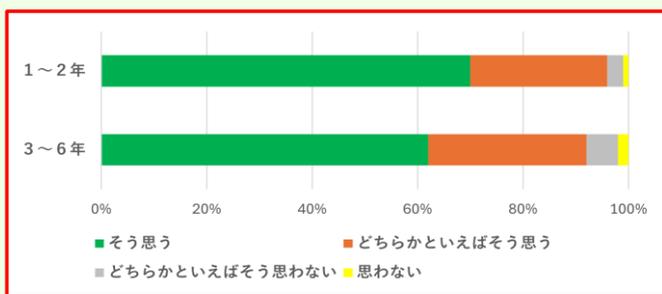
**仮説①** 自分の思いを出し合える授業づくりを進めていくことで、コミュニケーション力を高めるとともに、自分の考えを深めていくことができるのではないかと。

- 単元のゴールや授業の流れを提示したことで、子どもたちが自ら今日の学習の流れを確認して、活動を進めていく姿がみられる。
- 資料をペアの真ん中に置いて交流することで、言語化することが難しい児童も、指さしをしながら自分の思いを伝えることで、言語活動が活発化し、徐々に自分の思いを言語化できるようになってきた。
- モデル動画を見せることで、児童が交流での実際のやり取りの様子や内容がイメージしやすくなった。特にマトリックス表を活用しペアを見つける場面を入れることで目的意識をもって交流相手を選ぶことができていた。また、教師側にとっては、動画を作成することで、児童が読みを深めるための交流のポイントや着目させたいところが明確になっている。
- 交流を繰り返し、積み重ねることで、自分の思いを伝えられるようになってきている。
- ▲児童の交流とモデル動画で提示していた交流ポイントが異なる时候があった。モデル動画については、発表のポイントがずれないように今後も質の検討が必要である。

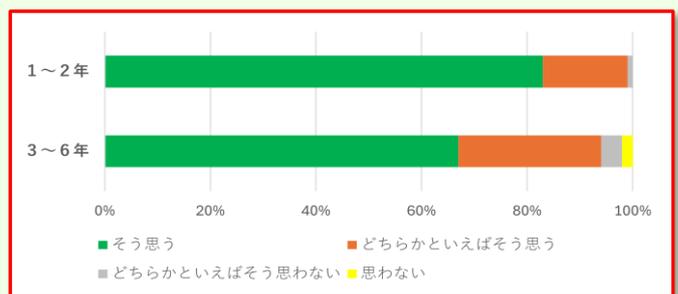
**仮説②** 主体的な読みに向かう取組として、並行読書で教科書教材以外の複数の話を読む機会をもち、教科書教材の内容の理解を深めるとともに、新しいものの見方や考え方と出会ったり、複数の話を関連づけることによって見えてきたりしたことが、子どもたち同士が考えを出し合ったり自問したりする対話へとつながっていくのではないかと。

- 常に本のある環境を整えていくことで、本に手を伸ばす児童が増え、本をあまり読まなかった児童の読書への抵抗が減ってきており、目的をもって読書する姿がみられるようになってきている。
- 並行読書マトリックス表を活用することで、意欲的に読書したり、自分から交流する相手を決めたりすることができている。
- ▲多くの並行図書に出会うことで、より熱意や関心をもって交流することができる。しかしそのような本に出会えない児童については、教師が読み聞かせをしたり、教師も含めて全員で読書する時間を確保したりといった工夫が必要である。

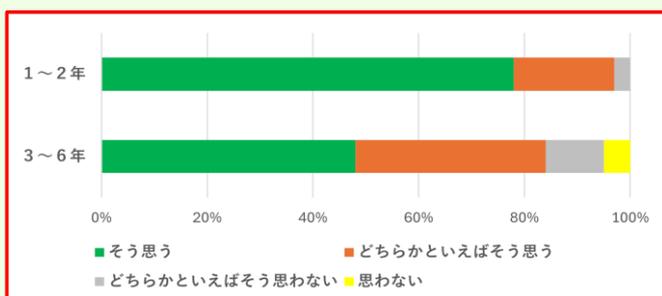
### 児童アンケートより(令和7年11月)



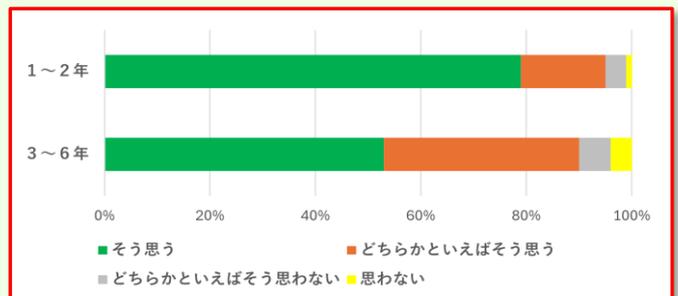
国語がよくわかる



国語の授業では友だちの考えをよく聞いている



授業では自分の考えを進んで伝えている



授業での交流を通して自分の考えが深まった

**仮説③** 明確な単元のゴールや見通しをもって取り組むための学習の流れを掲示したり、他学年に学びの発信をしたりすることで、より主体的な学びへとつながっていくのではないかと考える。

- 学びの成果を掲示することで、それぞれの学年で取り組んできたことを他学年に発信することができ、自己有用感の向上にもつながった。
- 学習計画表を教室に掲示することで、学習の流れや単元のゴールがわかりやすく、児童が見通しをもって学びに向かうことができるとともに、指導者側にとっても単元の流れが明確になった。
- 全文シートに自分が選んだところの付箋を貼ることで、自分と同じ、または別の考えの児童が明確になり、交流相手を見つけやすくなっていた。また、学年が上がるほど、全文シートが心情の変化等を捉えるのに役立っていた。
- ▲学校司書や市立図書館(やまなみ号)等連携して単元に必要な並行図書を準備してきたが、他校の学習時期と重なったり、本の冊数に限りがあったりするため、一人ひとりが本を手にとって読む環境をつくるのが難しい。
- ▲学習計画表、全文掲示の作成等に時間が必要。また、クラスの児童数によって並行図書を置く場所の確保が必要である。

## まとめ

これまでの学校研究を土台とし、さらなる授業改善に向け、言語活動を通して、主体的な学びをめざし研究を進めてきた。子どもたちの主体的な学びにつなげるためには、子どもたちが「読みたい」「伝えたい」「書きたい」と感じるための学習環境整備が重要である。また「考え」を持たせて交流する発想から、交流をすることで「考え」をはっきりさせていき、その後の学習のまとめとして「考え」を書くという手順が、本校の児童にとってより効果的ではないかとも考えた。そのため、子どもたちが自律的に交流するための支援として、同じ意見や考えを持つ、または反対の意見を持つ児童を明確にするための手立てとして並行読書マトリックスを用い、話し合いの価値や目的、方法を伝える手立てとして教師によるモデル動画を作成し、児童に見通しを持たせる取組を行なった。また学習のまとめとして「考え」を書いた学びの成果物を自らが発信し、それらに対する教師や児童相互の肯定的な評価が自己有用感の向上につながり、子どもたちの主体的に学び、活動する姿を見ることができるようになってきた。育ちつつある子どもたちの主体性、自己有用感の向上を通して、学校生活全体の活動に広げていきたいと考える。

## 研究同人

〈令和7年度〉

川合 哉 谷口久美子 中野美妃 朝比奈啓太 喜島由香 高崎真奈美 高橋菜穂  
平田美咲 角田卓弥 西川瑞紀 中林夏波 山崎真佑 飛田大河 安武義博  
畑ゆかり 岩崎孝子 谷口阿佐子 岩森 進 坂口凌央 井岡 恵 田中歩武

〈令和6年度〉

松田和隆 水本憲二 島田恭子 藤本 薫 米森郁子 出口友菜 松岡由佳

本校研究にご指導いただいた講師

京都女子大学発達教育学部教授 水戸部修治

〈参考資料〉 水戸部修治 著

- ・国語授業の「個別最適な学び」と「協働的な学び」(明治図書)
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する国語授業モデル(明治図書)
- ・小学校国語科「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する言語活動&学習評価(明治図書)
- ・小学校新学習指導要領国語の授業づくり(明治図書)
- ・質の高い言語活動パーフェクトガイド1・2年(明治図書)
- ・質の高い言語活動パーフェクトガイド3・4年(明治図書)
- ・質の高い言語活動パーフェクトガイド5・6年(明治図書)